

北海道木彫り熊の歴史を知ろう!

八雲町
木彫り熊資料館
展示作品

木彫り熊の発祥

北海道の観光土産品として知られる木彫り熊は、八雲町の旧徳川農場主徳川義親公が、大正10(1921)年に欧州旅行の際、スイスで購入したペザントアート(民芸品)をもとに八雲の農民に制作を奨励したことから始まります。大正13年、第一回農村美術工芸品評会が八雲町において開催され、スイスの木彫り熊をモデルとした伊藤政雄作の北海道第1号の木彫り熊が出品されました。

また、大正15年から旭川においても松井梅太郎によって木彫り熊が制作されはじめます。八雲の影響を受けつつ、アイヌが彫った木彫り熊として有名になります。昭和30・40年代の北海道の観光ブームで木彫り熊が爆発的に売れると、全道的に生産されるようになり、このころ「鮭をくわえた木彫り熊」のイメージが定着していきます。観光ブームが終わると木彫り熊もあまり売れなくなり、現在は全道的にみても彫っている人は少なくなりました。



八雲町木彫り熊資料館

北海道木彫り熊発祥の地
木彫り熊のふるさと



北海道八雲町 太平洋と日本海 二つの海を持つまち

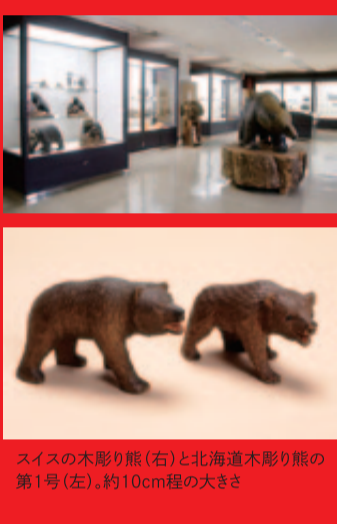


TEL 0137-63-3131 FAX 0137-64-3848
北海道二海郡八雲町末広町154番地
TEL 0137-63-3131 FAX 0137-64-3848

八雲町木彫り熊資料館
[開館時間] 9時～16時30分
[休館日] 毎週月曜日・国民の祝日・年末年始
[入館料] 無料

[展示内容]

八雲町木彫り熊資料館では、北海道第1号の木彫り熊とそのモデルとなったスイスの木彫り熊を含んだ民芸品、そして八雲で作られてきた木彫り熊と、旭川を中心とした北海道内の木彫り熊も展示しています。木彫り熊以外にも、八雲と尾張徳川家とのかわり、スイスやペザントアートについても紹介するとともに、徳川義親公が世界各地・全国各地から収集した大正末～昭和初期の民芸品も展示しています。



スイスの木彫り熊(右)と北海道木彫り熊の第1号(左)。約10cm程の大きさ

<http://www.town.yakumo.lg.jp/modules/museum/>

八雲町木彫り熊年表

- 1878(明治11)年 遊楽部を中心に、尾張徳川家による土族移住開始、徳川農場創設
- 1918(大正 7)年 徳川農場主徳川義親公、熊狩りで八雲を訪れ、以後毎年八雲を訪れる
- 1921(大正10)年 義親公欧州旅行、スイスにて木彫り熊などのペザントアート(民芸品)購入
- 1923(大正12)年 義親公、八雲の農民にスイスの民芸品を紹介、冬季間の副業として制作を奨励
- 1924(大正13)年 八雲農村美術工芸品評会開催、スイスの木彫り熊をモデルにした北海道第1号の木彫り熊を伊藤政雄が出品
- 1927(昭和 2)年 伊藤政雄の木彫り熊が北海道奥羽六県連合副業共進会で1等賞を獲得
- 1928(昭和 3)年 八雲農民美術研究会設立、講師は伊藤政雄と日本画家の十倉金之
熊狩りで義親公が子熊を2頭捕獲し「雲八」「磯子」と命名、農場で飼育
- 1931(昭和 6)年 第7回道展彫刻の部で柴崎重行「熊」入選
- 1936(昭和11)年 農民美術研究会、茂木多喜治・中里伊三郎の作品を昭和天皇に献上
- 1943(昭和18)年 戦時下で需要激減、農民美術研究会解散。八雲にて木彫り熊を制作するのは柴崎重行と茂木多喜治のみに
- 1971(昭和46)年 公民館において木彫り熊講座を開設。初代講師茂木多喜治、2代目講師上村信光、3代目講師引間二郎
- 1978(昭和53)年 「木彫り熊北海道発祥の地」記念碑を徳川農場事務所跡である旧徳川公園(独立行政法人国立病院機構八雲病院)内に八雲町百年を記念して建立
- 2003(平成15)年 木彫り熊講座休止
- 2011(平成23)年 「木彫り熊北海道発祥の地」記念碑を公民館敷地内に移設
- 2012(平成24)年 八雲木彫り熊展示室オープン
- 2013(平成25)年 公民館の木彫り熊講座が再開、講師は4代目千代昇
- 2014(平成26)年 八雲町木彫り熊資料館オープン



八雲農民美術研究会熊彫講習会

[木彫り熊のふるさと八雲]

八雲の木彫り熊は様々な展覧会で賞を獲得し、昭和3年には八雲農民美術研究会が結成され、技術を磨くとともに「熊彫」ブランドで売り出していきます。徳川農場のバックアップを受け全国的に販売し、昭和7年には「北海道観光客の一番喜ぶ土産品は八雲の木彫り熊」とまでいわれます。ところが第二次世界大戦がはじまると需要は減り、研究会も昭和18年に解散してしまいます。しかし戦争中も彫り続けた人々がおり、昭和46年から公民館で木彫り熊講座が開かれたことにより、町民の間に伝統は受け継がれ、今日に至っています。

八雲の木彫り熊は様々な展覧会で賞を獲得し、昭和3年には八雲農民美術研究会が結成され、技術を磨くとともに「熊彫」ブランドで売り出していきます。徳川農場のバックアップを受け全国的に販売し、昭和7年には「北海道観光客の一番喜ぶ土産品は八雲の木彫り熊」とまでいわれます。ところが第二次世界大戦がはじまると需要は減り、研究会も昭和18年に解散してしまいます。しかし戦争中も彫り続けた人々がおり、昭和46年から公民館で木彫り熊講座が開かれたことにより、町民の間に伝統は受け継がれ、今日に至っています。

[熊狩りの殿様、徳川義親公]

尾張徳川家第19代当主で、大正7年から毎年八雲に熊狩りにきており、農村の生活の貧しさをよく知っていました。そのため、スイスでペザントアートをみたときに、農村復興の手段として用いることを思いつきます。八雲の木彫り熊のブランド名「熊彫」は義親公の「熊狩り」にちなんでいます。



[八雲木彫り熊の特徴]

八雲の彫り方には、大きく分けて2種類あります。1つは細かい毛立てを行う「毛彫り」で、もう1つはカットした面で熊を表現する「面彫り」です。



<p>十倉金之 Kaneyuki Tokura</p> <p>日本画家で、日本画の表現技法を毛立てに取り入れました。肩の盛り上がりから、四方八方に毛が流れる菊型毛を考案しました。</p>	<p>茂木多喜治 Takiji Mogi</p> <p>戦争中も困難に負けず、専門として彫り続け、写実的な毛彫りの熊を多く作り、後進を育てました。</p>	<p>柴崎重行 Shige-yuki Shibazaki</p> <p>手斧で木を割っただけのような面彫り(柴崎彫り)で独特の作品を作りました。</p>	<p>加藤貞夫 Sadao Kato</p> <p>八雲の中でも一番繊細な毛立ての熊を作り、上海万博にも作品が展示されました。</p>	<p>上村信光 Nobumitsu Uemura</p> <p>公民館木彫り熊講座の第一期生で、熊だけでなく他の動物や仏像なども制作しました。</p>	<p>引間二郎 Jiro Hikima</p> <p>太く短い毛彫りと、面彫り(カット彫り)の熊を「木歩の家」という工房兼販売所で制作しました。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

YAKUMO KIBORI-GUMA

Yakumo Wood Carving

야쿠모목각의곰

八雲木刻熊

八云木刻熊



柴崎 重行 Shigeyuki Shibazaki

八雲木彫り熊

発祥の地から新たな創造へ 北海道八雲町



十倉金之
Kaneyuki Tokura



茂木多喜治
Takiji Mogi



柴崎重行
Shigeyuki Shibazaki



加藤貞夫
Sadao Kato



上村信光
Nobumitsu Uemura



引間二郎
Jiro Hikima

YAKUMO KIBORI-GUMA

Yakumo Wood Carving

야쿠모목각의곰

八雲木刻熊

八云木刻熊



茂木多喜治
Takiji Mogi

八雲木彫り熊

発祥の地から新たな創造へ 北海道八雲町



十倉金之
Kaneyuki Tokura



茂木多喜治
Takiji Mogi



柴崎重行
Shigeyuki Shibazaki



加藤貞夫
Sadao Kato



上村信光
Nobumitsu Uemura



引間二郎
Jiro Hikima